

賢治とイソップの出会い (付: 罪責感の行方)



hamagaki



発表の趣旨



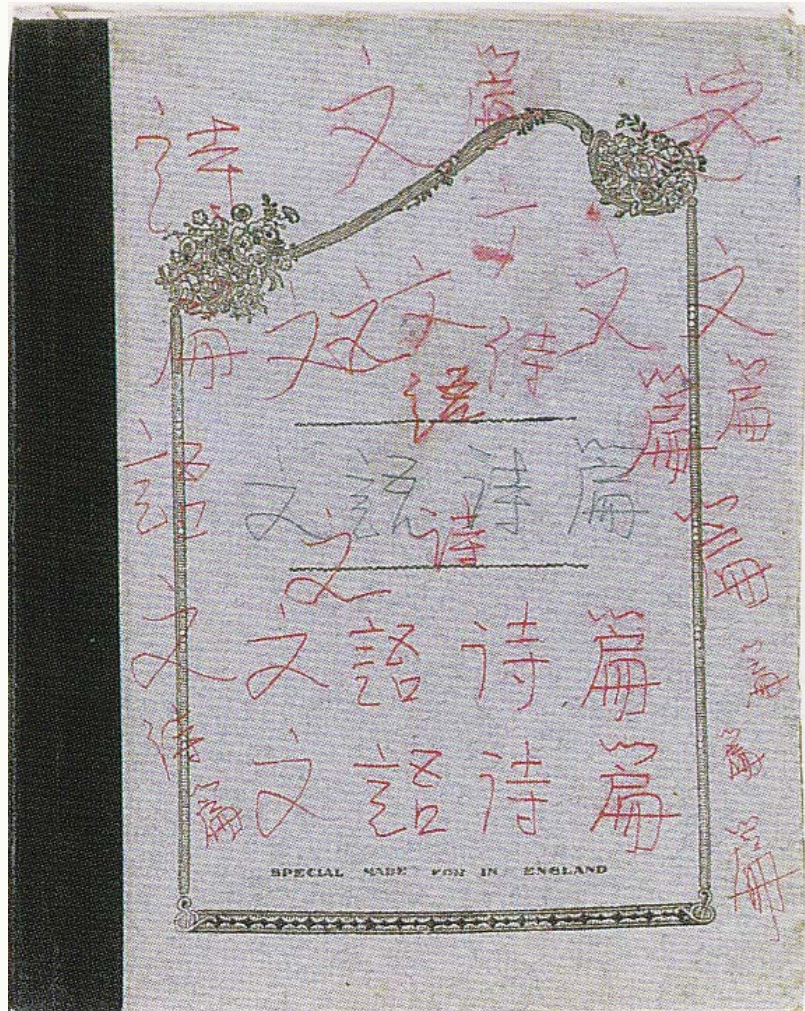
- ❶ 賢治は、アンデルセンや、グリムや、ルイス・キャロルなどの作品を読んでいたらしい
- ❷ 賢治の童話に、彼らの作品からの影響を探る研究も、種々なされている
- ❸ 一方、賢治の初期の短い寓話的作品には、イソップ寓話を連想させるものも、少なくない
- ❹ しかし管見では、賢治がイソップ寓話を、いつどのように知ったのかは、明らかではない
- ❺ 本日は、その「出会い」について考えてみる

寄宿舎舎監排斥事件



- ❶ 賢治が盛岡中学4年の3学期に、寮生たちが新任の舎監に対して、様々な悪戯を繰り返した事件
- ❷ 「悪戯」の内容は、夜中に廊下をドンドン踏み鳴らす、舎監室の電気を消す、階段に戸板を立てて舎監が二階へ行くのを邪魔する...等
- ❸ 最終的に学校当局は、4年生・5年生全員を退寮処分とし、賢治も退寮になった(賢治を「首謀者の一人」とする説もあるが、詳細は不明)

「文語詩篇」ノート



- 賢治が晩年に、自分の生涯の出来事を、経年的に整理し書き付けたノート
- 文語詩の題材とする目的で、作成したものと思われる

「ノート」における舎監排斥事件



18

1913

一月 寄附金全額出金

杉本英之助 Pa

かの文士などにはあめさ。

家には新書ありてやふし中ねらの数いれひとと

あれらつとみえてをたぐ？ とはちん 人のふり 入たり。

これには死にたいとみしとまて？ ちつてみまふて

杉山英之助、同。

星板の虎をませしあらまが

記載内容の不思議



「なれらつどひて石を投ぐるそはなんぢには戯なれどもわれには死ぞ」

- ❶ 寮生は、「つどひて石を投」げたのか？
 - ❷ 中学生の悪戯に対して、教師が「われには死ぞ」と言うとは、あまりに大げさではないか？
- この言葉には、何か出典があるのではないか？

イソップ寓話「少年と蛙」



THE BOYS AND THE FROGS

SOME boys, playing near a pond, saw a number of Frogs in the water, and began to pelt them with stones. They killed several of them, when one of the Frogs, lifting his head out of the water, cried out: “Pray stop, my boys: what is sport to you, is death to us.”

(George Fyler Townsend 英訳, 1867)

イソップ寓話「少年と蛙」(和訳)



少年と蛙

池のそばで遊んでいた少年たちが、水の中にたくさんの蛙を見つけて、石を投げつけ始めました。少年たちが何匹かの蛙を殺してしまった時、一匹の蛙が水から頭を出して、叫びました。「坊っちゃんたち、どうかやめて下さい。あなた方にとっては遊びでも、私たちにとっては死なのです。」

舎監の言葉は・・・



- ❶ 舎監の「そはなんぢには戯なれどもわれには死ぞ」という言葉が、このイソップ寓話からの引用であれば、その前の「なんぢらつどひて石を投ぐる」の部分も、寓話からの引用として理解できる
 - ❷ わざわざ舎監がここでイソップの「引用」をしたのは、この言葉が、すでに生徒とも共有されているものだったからなのではないか？
- ← 盛岡中学校の授業における「教材」？

「かの文学士」・・・



- ❶ その新任舎監は、「文学士」だった
 - ❷ ということは、「国漢」か「英語」の教師だったのだろう
 - ❸ しかし、「国漢」の教材として「イソップ寓話」を取り上げるとは考えにくい
- 舎監は英語教師で、教材として英語版の「イソップ寓話」を用いたのではなかったか

事件当時の舎監



- 🍎 1913年(大正2年)1月時点で、
 - 🍎 舎監: 服部品吉(国漢)、千田宮治(国漢)、
杉崎鹿次郎(英語)、矢口恵之助(博物)
 - 🍎 舎監補助: 津田清三(英語)
- 🍎 杉崎鹿次郎は、1910年9月着任、1911年4月より舎監(「文語詩篇」ノートに、「同 杉崎鹿次郎」との記載あり)
- 🍎 津田清三は、1912年10月着任、同12月より舎監補助

当時のイソップ英語教本

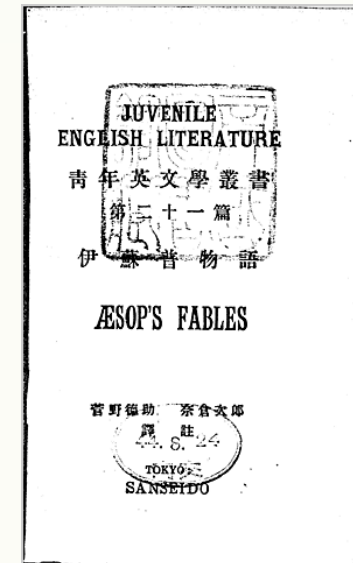


- ❶ イソップ寓話が、当時の盛岡中学校の英語教材として使われたとすれば、それはどんなテキストだったのか？
- ❷ 国会図書館の蔵書で、1913年（大正2年）までに出版された、英語テキストを載せた本を検索すると、以下の三種があった
 - ❶ 「英文伊蘇普物語註釋」（1903）
 - ❶ 「初等英語叢書第二十一篇 イーソップの話」（1910）
 - ❶ 「伊蘇普物語（青年英文學叢書）」（1911）

「伊蘇普物語(青年英文學叢書)」



- ❶ 1911年(明治44年)出版
- ❷ 菅野徳助・奈倉次郎 訳註
- ❸ 三省堂 刊



and said),『皆さん、どうぞ止めて下さい(pray stop, Boys),
私等に石を投げるのは (throwing stones at us), 皆さんに
は非常に面白からうが (may be great sport for you,
but), 私等には命騒ぎです (it is death to us), あなた方に

「初等英語叢書 イーソップの話」



- ❶ 1910年(明治43年)出版
- ❷ 『英語研究』記者 編著
- ❸ 英語研究社 刊



4414 "We are only playing," said the boys. "I know it," said the frog; "but the stones you throw hurt us all the same. What is play to you is death to us."

『それは分つてますが、どのみち皆さんがお投げになる石は私共には怪我を爲せます。皆さんには遊び事でも私共には死生の問題です』と蛙は答へた。

「英文伊蘇普物語註釋」



- 🍎 1903年(明治36年)出版
- 🍎 河島敬蔵 註釈
- 🍎 浜本明昇堂 刊

(60) THE BOYS AND THE FROGS.

Some Boys, playing near a pond, saw a number of Frogs in the water, and began to pelt them with stones. They killed several of them, when one of the Frogs, lifting his head out of the water, cried out: "Pray stop, my boys: what is sport to you; is death to us."*

(60) What is sport to you, is death to us. 汝には遊戯なれど我れには死なり



河島敬蔵について



- 1859年(安政6年)生、1935年(昭和10年)没
- 英文学者・翻訳家で、シェークスピア翻訳では坪内逍遙と双璧
(『露妙樹里戯曲 春情 浮世之夢』明治19 等)
- 一方で、学生向け教科書・参考書も多数著す



ここまでのまとめ



- ❶ 賢治は盛岡中学校の頃、津田清三教諭または杉崎鹿次郎教諭の英語授業において、河島敬蔵編『英文伊蘇普物語註釋』により、イソップ寓話と出会ったのではないか
- ❷ 20年近くも後になって賢治が、舎監の言葉＝イソップ寓話からの引用を、ほぼ字句通りに想起したことは、その印象がよほど強かったことを示唆する

「手紙 四」への連想



(前略) チュンセはキヤベヂの床をつくっていました。
そしたら土の中から一ぴきのうすい緑いろの小さな
蛙がよろよろと這つて出て来ました。

「かへるなんざ、潰れちまへ。」 チュンセは大きな
稜石でいきなりそれを叩きました。

それからひるすぎ、枯れ草の中でチュンセがとろと
ろやすんでゐましたら、(中略) 向ふにポーセがしも
やけのある小さな手で眼をこすりながら立つてゐて
ぼんやりチュンセに云ひました。

「兄さんなぜあたいの青いおべべ裂いたの。」(後略)

「少年と蛙」と「手紙 四」の共通点



- 少年は、蛙を石で打つ
(pelt with stones: 石で叩く、石を投げつける)
- 少年は、無分別であるにすぎなかったが、それが残酷な結果を招いた
- 少年は、後から蛙自身の言葉によって、自分が行ったことの重大さを知る

→二つの話は、同型の構造を持っている

舎監排斥事件と「手紙 四」



🌐 少年が抱えた深い罪責感

- ❖ なれらつどひて石を投ぐるそはなんぢには戯れなれどもわれには死ぞと云ひしとき口うちつぐみ青ざめて異様の面をなせしならずや
- ❖ チュンセはびつくりしてはね起きて一生けん命そこらをさがしたり考へたりしてみましたがなんにもわからないのです

🌐 「手紙 四」における「蛙を傷つける」挿話

- ❖ 無邪気に舎監排斥に加わった中学時代の自分への悔恨が、「少年と蛙」の記憶とともに、チュンセの罪責感の表現に潜在しているのではないか



amphibian ark
2008 YEAR OF THE FROG